

いしやまじょうあと 18 石山城跡

所在地：大飯郡おおい町石山地係

調査原因：範囲確認調査

調査期間：令和4年4月～令和5年3月

調査主体：おおい町教育委員会

調査面積：450 m²

時代：中世



位置図 (S=1/50,000)

遺跡について 石山城跡は、石山集落背後の標高 190mの山上に展開する山城です。主郭からは^{しゅかく}佐分利川上・中流域一帯を一望でき、県道小浜綾部線と県道坂本高浜線が交差し、この地域を支配するうえで重要な場所に築かれています。本調査は、石山城跡の保存活用と将来的な整備の可能性を探ることを目的とし、令和4年度で4年目の調査となります。今年度は、範囲確認と^{くるわ}二の曲輪を中心に確認調査を行いました。

主な遺構 二の曲輪は、主郭から 50m北側に位置しています。二の曲輪では^{ほったてはしらたても}掘立柱建物と思われる^{ちゅうけつ}柱穴を検出しました。柱穴はコの字状を呈し、概ね 1 間間隔に配置されています。コの字状の中央には直径約 1.4m、深さ約 1mを測る^{どこう}土坑があり、越前焼の甕の土器片が出土したことから、甕を埋め込み水甕として利用していたことが推測され、柱穴及び土坑の配置から水甕の^{おおいや}覆屋の存在も考えられます。柱穴以外に地山に直接据え置いた^{そせき}礎石も検出しましたが、2点のみで、他の礎石は抜き取られたものと思われる。また、主郭より 120m北側に位置する小規模な曲輪の調査を行いました。曲輪は、南北 9m、東西 6mを測り、この曲輪からも地山に直接据え置いた礎石と考えられる石材を検出しました。部分的な調査のため、曲輪全体に礎石があるかどうかは判然としませんが、小規模な曲輪でも建物の存在が推察されます。

主な遺物 主郭からは^{はじしつさら}土師質皿(カワラケ)・越前焼の甕・^{はくじ}白磁碗・^{そめつけ}染付碗などの土器片・^{どうせん}銅銭などが出土しており、概ね 16 世紀中頃から後半に相当すると思われる。

(川嶋 清人)



写真1 主郭 全景



写真2 曲輪先端部 全景



写真3 二の曲輪 全景



写真4 掘立柱建物か



写真5 出土遺物